

http://www.shiraishi-keiko.net e-mail info@shiraishi-keiko.net



# 民主党練馬クラブ 区政レポート 白石けい子

練馬区貫井育ち、高松在住。昭和29年生。練馬二小・貫井中・都立第四商卒。  
保育士・社会福祉主事。NPO法人ケアステーションぽかぽか理事長  
「保育&介護」施設を高松にて提供中。第16期区議会に、福祉現場の声を届ける  
ため区議会議員となる。現在、環境まちづくり委員会所属、医療・高齢者等  
特別委員会委員長。家族 夫・子ども4人 犬・猫1匹ずつ

14

発行 民主党練馬クラブ  
練馬区豊玉北6-12-1西庁舎6F  
Tel 03-3993-1111(内7621~5)  
fax. 03-3993-1197

## 平成23年度予算に「異議あり」!

平成23年度一般会計予算に対し、「病床数確保」「職員採用ゼロ」「任意予防接助成」「産業活性化」等に対し、反対の表明をした。二面の特集は、『これからの練馬区は?』を皆様と考えていくため、すがた誠氏との対談を掲載。

### ●区長に物申す——反対討論原稿より●

#### 病床数確保は可能?!

練馬区の人口に対し病床数は23区で最も低い水準。

区長は、今定例会の所信で、新病院の整備を含む区内5病院構想による練馬区独自の地域医療計画を表明したが、区西北部二次保健医療圏(豊島区・板橋区・北区・練馬区)において病床枠は181床しかなく、実行に移す環境は全く整っていないのが現状。

また、練馬駅北口区有地活用事業に突如、140床規模のリハビリ病院が提案されており、場当たり的な対応は、区民を混乱させるだけ、地域医療拡充策には不信を抱く。

#### 職員新採用「ゼロ」?!

来年度における正規職員の採用が見送られた。

厳しい雇用情勢が続くからこそ、ここ数年、80人前後の正規職員を採用していた練馬区が、採用をゼロにすることは、「練馬区のために働きたい」という若い希望の芽を摘むばかりでなく、職員の空洞化がもたらす影響は図り知れない。

#### 国の政策適合しない任意予防接助成?!

昨年、国の補正予算で「子宮頸がんワクチン接種緊急促進臨時特例交付金」が計上、区でも接種費用の助成を始めるが、厚生労働省が求めている

0歳から4歳までの乳幼児への全額助成にはなっていないことや、予防接種の種類によって助成対象が異なる制度では、区民への説明義務を怠っているとわがざるを得ない。

#### アニメ産業は振興施策といえるか?!

平成16年度からのアニメ振興経費を合計すると、3億3千万円強になるが今だ、アニメによる産業活性化や税収アップの兆しが見えてこない。

これまでの中においても、本区が日本アニメーションの発祥の地というイメージは、街並みからも全く感じられない。

他の自治体の総工費を投入しての成功例に、堺港市の水木しげるロードには4億4千万円。阪神大震災からの復興を目指し、構想3年で完成させた神戸市長田区の鉄人28号の1億3千5百万円がある。練馬区のアニメ施策は何を目指していくのか全く分らず。

#### 指定管理者制度等の委託・民営化は限界?!

平成18年度より進められてきた行政改革の一つである委託・民営化基本方針であるが、公務を代行する事業者が不手際が生じた際の執行管理者である区の責任の所在が不明確である点を懸念。

「事務事業見直し」などをさらに充実させ、真に必要な事業を精査し、執行の適正化、効率化に努めるべきである。

【発行記】13日に予定していた『区政報告会』は11日の発生した未曾有の大地震により、会場が使用不可。やむなく中止といたしました。被災されました方々には心よりお見舞い申し上げます。『これから練馬区は?』まちづくりとコミュニケーションの関係が重要になります。ともに「新しい風」を入れ、新しい練馬区の誕生に向け、頑張ってくださいと思います。

●直球トーク ●すがた誠 VS 白石けい子 ←

# 「これからの練馬区は？」

## ■財政について

【白石】練馬区の23年度予算が2千3百24億円余となり、

【表1】のように区独自財源は、23区の調整金に依存し、将来的な財政が心配になりますね。

【表1】 (千円)

平成23年度予算	金額
特別区交付金	71,997
特別区民税	60,224
国庫支出金	45,433
都支出金	12,930
繰入金	13,034
特別区債	6,661
その他	2,213

【すがた】練馬区は、ご存じのように大きな税収源となる産業活動がそれほど盛んではありませんが、都

区財政調整制度に守られてきました。しかし、逆に言えば、特段の産業振興策や地



域民間力の向上策を講じなくとも区収入に大きく影響せず、これに甘えてきた……。これまで

は23番目の特別区自治体として、施設などハード面の充実が急務でありましたが、今後は、高齢化、人口減、地方分権の推進、都区財政調整制度の見直しなど、税収を含めた自治体および地域の自立が不可欠となり、一日でも早くこれに備える必要があります。

【白石】ここ数年の経済状況から、雇用情勢にも影響が現れ、区は「区民生活防衛対策」に55億円の予算化をしたが、これも大切な税金。生活防衛の効果と将来的な雇用安定に繋がる施策が求められているのに場当たり的にしか感じられません。

【すがた】どの分野の施策も、実施するからにはその効果を図る手段を持ち合わせることを求められる時代。さらに、自由主義をモットーとする経済活動に、税金を費やすためには、より一層の公益性と公平性が必要。これまで、経済効果を図ることすら不十分だったと……。

## ■産業活性化について



【白石】練馬区の産業活性化として「アニメーション」「農業活性」「商店街振興」などを目玉施策としていますが、区の姿勢が見えてこない。やるなら、経済効果や税収につながるようもつと示すべきと思います。

【すがた】十分な福祉施策を展開するためにも、税収の裏付けが必要。練馬区の独自収入である個人住民税は収入総額の25%程度。産業活動による法人税が都税として一度徴収され、それを23区に再配分されてきたことで助かってきました。しかし、間もなく地方分権が具体化し、練馬区が通常の地方自治体になる可能性が高い中、産業活動からの法人住民税だけに頼るのではなく、雇用確保による個人住民税の収入増を図る施策が求められていきます。

人材豊富な練馬区の特徴を生かし、地域で区民雇用を実現できる産業拠点の育成・創造への着手は必須ですね。

## ■まちづくりについて

【白石】70万人となった練馬区の「まちづくり」は、重要な岐路を迎えている。区民が自分たちの住んでいる街を大切にしたい意識が高まっているからこそ、計画段階から参加していく過程（インボルブメント）が大切。

できるだけ丁寧な、住民の理解を得るべく努力が必要ですね。

【すがた】まちづくりは、いま生きている区民だけの課題ではありません。少なくとも百年以上先の世代に大きく影響する重要なものです。ですから、数年間100年以上先を想定したつもりでも、おそらく将来ニーズに適応できない点が含まれているはずです。そのことも意識し、柔軟な計画策定のプロセスを経るべきですね。

## ■福祉とコミュニティ

【白石】「福祉」は国の制度対応だけでは限界。これからは、NPO・市民活動など社会資源を活用していくことから、コミュニティや雇用・「安全・安心」の体制ができる。区は、11の外郭団体や、大手事業者に委託・民営の計画を進め、これを「行政改革」と。それでは「地域コミュニティ」が育たない。いま、見直しが求められています。

【すがた】区長選挙に立候補する準備の中で、多くの区民の皆様と区長公約を創っています。とても興味深いご提案をいただきました。全国初の取り組みとして、地方消費税の還元を段階的に実施し、その還元分で区内の産業地域振興策を区民のみなさまのお知恵で行っていただくというものです。これにより、地域ニーズに応じた取り組みなどが創造・育成され、将来的には、区直営や外郭団体の施策などの見直しが必然となるものと考えています。

## ■福議会改革と行政改革について

【白石】他の自治体では、既に議会の中で討議され動き出していますが、練馬区はまだまだの状況。これからの議会は、改革を見据えた話し合いをしてきたい。また、行政改革においても、職員削減ではなく、「事業仕分け」を含めて、ともに考えていくことが求められています。

【すがた】行政改革は、行政議会改革は、議会で議論し合うというのではなく、一体的に「区民のため」の目的に向かっていかななくては、本当の改革はならないと考えています。【白石】本当にその通りです。共に頑張りましょう。ありがとうございました。